



渡辺よしお通信

発行
新発田市議会議員
渡辺 喜夫
連絡先
新発田市 西名柄
(下名柄) 3129
☎ 22-6724
FAX 22-6730

私の一般質問（要旨）

★一般住宅の火災警報器の設置について

〔質 問〕 住宅火災による死者数が増加し、その半数以上を65歳以上が占めている。消防法が改正され、既存住宅は平成23年6月までに火災警報器の設置が義務化になった。火災警報器の設置実態並びに普及率はどの様になっているか。障がい者世帯、高齢者世帯、生活保護世帯などへの火災警報器の購入、取り付け費用の助成制度について市の考えは

〔市 長〕 現在、既存住宅の火災警報器の設置実態並びに、普及率の詳細なデータは把握しておりませんが、今後、自主防災組織の立ち上げ状況等のアンケート調査を行うこととしており、その中で火災警報器の普及率についても調査を進めて行く考えです。

また、障がい者を対象に、日常生活用具の給付事業を実施しています。等級2級以上、または、重度知的障がい者で火災感知及び避難困難な世帯に一定限度の範囲内で火災警報器を給付しております。

65歳以上の低所得の寡たきり高齢者や、一人暮らし高齢者を対象に同様の給付を行っております。

生活保護世帯は、厚生労働省で検討をしているので通知があり次第対応をする考えです。

★バイオエタノール米の作付け誘導と食糧供給都市構想との整合性について

〔質 問〕 バイオエタノール米の作付けは、大切な農地から食料以外のものの生産で問題がある。当市は米を中心とした食文化があり、一粒一粒の米には命をつなぐ役割があります。「食のまちづくり」や「食育」食の循環の観点と、市の将来都市像が食糧供給都市として目指しているが、バイオエタノール米の作付け誘導と整合性はあるのか

〔市 長〕 バイオエタノール米は、畑作物への転換が困難な、水田の活用を図る米の生産調整の取り組みであり、農地、水、環境の保全と二酸化炭素も抑制され水田活用の有効な手段と考えています。今年は35ヘクタール栽培されています。計画需要に見合った米の生産調整の的確な推進と環境保全、そして資源循環型社会づくりからも食糧供給都市構想と整合するものと考えます。

『中国・四川大地震』の被災者を救援する募金活動行いました。



6月8日（日）舟入町のショッピングセンター・コモタウンにて